

お仕事 休日 向上 計画

佐藤 透¹⁾

Toru SATOH

1) 医療法人社団涼風会佐藤脳神経外科

〒729-0104 広島県福山市松永町5-23-23

<http://www.ryofukai.jp/>

<http://poru0665.blog92.fc2.com/>



日々是好日～楽しき日常診療

はじめに

人生、眠りが3分の1、お仕事が3分の1、自由時間が3分の1とされている。開業医ともなれば、しかも有床診療所の院長職ともなれば、眠りが4分の1、お仕事が2分の1、その他の時間が4分の1となる。ってことは、1日の半分以上、1年の180日分、医者としての人生の半分はお仕事に費やされてしまう。これって嘘のような本当の話。“人生を楽しむは、日々のお仕事を楽しむなり”。これはまさに“金言”。それがためには、日々のお仕事は楽しいに限る。お仕事の内容にもよるけれど、たちまちは、“日々の診療を楽しむ”っきゃないな。

脳神経外科のお山とその裾野

脳神経外科の看板を頼りに、皆さんやって来られるんだけど、なかなか“本物”には出会えない。本当の脳神経外科疾患は、かかりつけ医からの紹介か。はたまた、ばたんきゅーのQQ(救急)搬入のなかに限られる。そういう本物。“それいけ出番だ、はいCT室MRI室、済んだら手術室”って、若かりしころのイケイケドンドン物語。これって、お山の頂から眺める絶景だったよね。結果の如何にかかわらず、“脳神経外科医冥利”に尽きる、まさに醍醐味だ。

最近はどういうと、こんなイベントとは少々掛け離れて久しい気もする。それはそれで、いち開業医としては、もっと別の喜ばれる世界があるってことだよな。脳神経外科の預かるお山、その頂上はほんの一握りの

限られたところ。なれどその裾野は広く、とてつもなく広かった。どこまでもなだらかに続いて、お隣近所あたりまで連なっている。頭痛、肩凝り、痺れあり、めまいふらふら悪心あり、耳鳴り・難聴、な～んでちよう～なあんちゃって。これは単なる“アタマイタ”のひとつの～(長島茂雄風に)“カタコリのシビレ”で、ある意味の加齢現象だな。みなさん“ダイジョービン”のひとつ言をお目当てに参上されて、べったんこ“太鼓判”を押してもらって、うきうきお帰りなさる。“えかったあ～”。もうチイと元気で長生きでける。

日々の診療を楽しむ

日常の診療をこれいかに楽しむか。“来たる者は拒まず、去る者は追わず”。これらのもろもろを受け入れて、適切に処理して、あるいは追っ払って。齢55を重ねて、脳神経外科30年のキャリア、開業してはや20年になる。これを日々のお仕事にどう還元するか。辛抱強く頼って来てくれる。いつもいつもの大勢の爺さん婆さん。医療よりも検査よりもお薬よりも、“どうしとつかねえ～”って尋ねてもらって、“うんうんそれよなあ～”って聞いてもらって、この“お話”が、何よりのお土産。お一人、お二人暮らしのお年寄りの癒しには“お喋り”が一番じゃでな。それがためには、お話のネタ=タネ(種)が要るよね。話題を提供して、“お時間を共有する”のがいいんだよね。爺さん婆さんと“ご一緒に楽しむ”ってのが面白い～最高だあ～。最新の3-D multi-fusion imaging だとかなんだとか言って、3-D 画像の創作にシコシコはまってるばやいじゃねえズラ。

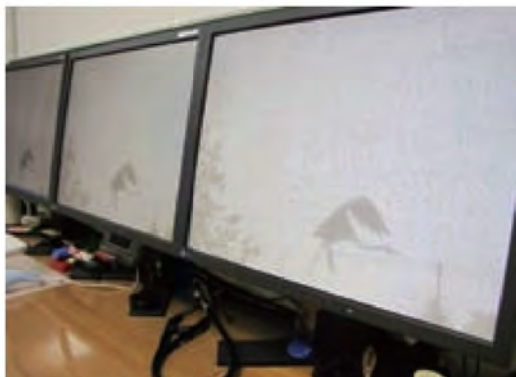


図1 これこれこれって～丹頂鶴っぽいけど、カーテンに映る影絵、鶴に見えるじゃろ。本当は何じゃろね？ これってアオサギ、あのサギ太くんなんよね、はは～ん、詐欺におうたかな、サギに会ったかな、騙されんようにせんとけんな。



図2 ここここ、何がおる？ よ～く見てみい、こことあそこにセミがおるじゃろ、これクマゼミじゃん、ほかには？ トンボよ、ホント、赤トンボ、どこどこ、こことあそこ、わかったあ？ (解答は p.1437 に)。



図3 何かどこかに隠れとるじゃろ、よ～く見てみいな、そこそこ、黄色いポーチュラカに黄色いモンキチョウ、そうそう、ちょうちょう、超わからんよね (解答は p.1437 に)。



図4 何かおらう？ 芝生のなかに、葉っぱじゃないよ、バッタじゃでよ、ショウリヨウバッタじゃでこれ (解答は p.1437 に)。

診察机上に居並ぶ大画面のディスプレイ3連荘^{りんちやう}。これはフィルムレスの医用画像がための専用表示システムである。これに私用のPCを連結して、ここにドローンとあれやこれやのデジカメ写真を映し出す。画像クイズ、“どやこれっ、これな～んだ？ わかるかい？”って質問する。世にも美しい木々花々の写真、紛らわしいトリッキーなかくれんぼ写真、見たこともない超珍しいショット、マクロ拡大の部分画像、しゃれも駄じゃれも、“オヤジギャグ”も交えてのひとこま。想像力を必要とする“考え落ち”の場面などなど、いろ

いろと盛りだくさんにある。

これら秀逸の作品は、ふだん使われていない脳機能を十分刺激してくれるらしい。お隣に立つ診察就きの看護師さんも急きょご参加される。あれやこれと皆で一緒に知恵を絞って、答えを出す。ハイ、ご名答です。“びんぼ～ん”正解、“花丸”の合格で～す。ご迷答の場合は、せいじゃ三択、これから選んでよね。“プブ～”、それでは、またこの次をお楽しみに、がんばろ～って、判決お沙汰を下す。

クイズの答えも答え方も、人それぞれ、十人十色と



図5 こりゃチト難しい、何かおるじゃろ、葉っぱをよ〜く見てみて、これアオマツムシじゃでよ、ほらほらここにも、こっちがメス、背中に角印があるあっちがオス、あれマツムシとはチトちゃうで、木にのぼるアオマツムシくんなんよね(解答はp.1437に).



図6 うちの桜。表の玄関のお隣りのやつ、綺麗じゃろっ。今が満開よな。なんかおる? ここここ、これって木の枝じゃないよ、この先にくちばしがあるのチト見えるじゃろ、これってヒヨス、ヒヨドリよな、帰りによ〜く見てみい、まだおるで、花蜜吸っとるでな(解答はp.1437に).



図7 こりゃあ何の花じゃい、爺さん。そうだよジイサン、あっじいさん〜あじさいじゃよな、ガクア・ジイサンよね。



図8 これは何の花? この花な〜んでんの? ナンテンなんよ、何点取れた? な〜んでんちゃって。

なる。ふだんにない迅速な反応を示す人には驚き桃の木。はなっから、“わたしらにゃあわからんから”，って前置きして、そいでもって、しっかと画像に見入って探してる人。なつかしの昔の風景を得意に解説してくれる人。過去はしっかとお話できるんじゃあ、感心感心。あれあれ、ちと褒めるといつまでたっても止まらない。ほな、“またにしようか”って、いいかげんに切り上げてもらう。入ってくるなり、診察そっちのけで画像に釘付けになって見る人。きょうびはどうしょっとかね。肩凝り腰凝りのトリガーポイント注射の合間、ちらほらと画面を盗み見して、聞かれる前に

答えを準備するちゃっかり者もいる。こちらの写真はそこそこに、ご自分の携帯を開いて、ご自慢の洋ラン開花を見せびらかせる人。おっと。これは“きよしのズンドコ節”，これって着メロじゃん。ここは診察室、ついでにそのままお話続けるんじゃないよ。あれまあ〜かばんを忘れたまま廊下にトンズラしちゃって、とんでもトンズラ婆さんじゃん。

好評の画像の数々は、つどに更新される。それがためには、日々庭を巡って、空を仰いで、街を歩いて、山川に出かけて、いつ何時でもデジカメを持ち歩いての作品収集が欠かせない。これも日々お楽しみの日課



図9 なつかしの小学校、こんなかったじゃろう、この廊下、よお立たされとった？ ここが音楽室、ここが保健室、さてさてそのお隣は何の部屋？ そうそう、いっちゃん偉い人、校長室じゃでな、でもこの写真何だか変じゃろ、なにがイケンかな、これこれ、小学校なのに灰皿があるじゃろ、ここはなあ、しまなみ海道は大三島の宗方小学校、昔のまんまで保存されていて、今は研修施設になっとうけえな、タバコ吸う人も来るんじゃろな、なつかし〜よなあ。



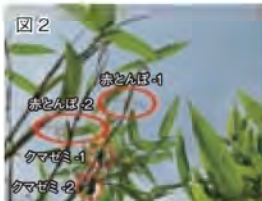
図10 これなんかわかる？ 松永人じゃったらわかるよね、ここに描いてある絵、昔の松永の入り江、これが明神橋んところ、周りに材木工場、いかだもあるじゃろ、んで、何に描いてあるかって、これが問題、ここここ、これが鼻緒じゃったら何じゃろかな、げたじゃん、そうそうげた、松永特産のげたのでかいの、この前のゲタリンピックで使こうたやつ、1.5 トンもあるげたさばりの鉄のげたなんよ、行って見たん？

となる。朝飯を中断して、あっアオサギ（蒼鷺）さぎ太の“青くん”が来とるで、“はいポーズ”。いつも上空を滑空偵察なさってごころ〜ちゃん。水庭の防備は完璧じゃから、もう愛鯉、お魚さんは盗られないよ、おあいにくさまでした。

おわりに

日々の楽しみをお仕事に求める。日常の診察は、お

互い人と人のお付き合い。脳神経外科の専門家として、そのシリアスな出番がなくなっても、医療人として、たとい医術・施術の提供ができなくなっても、皆さんと日々の時間を共有することができる。そのなかでは、医者である・患者である・家族である、というそれぞれの立場はなくなる。単なるただのヒト・人々がいるって世界だ。この日常にこそ、生き行く楽しみがある。それならお仕事のストレスなんてどこにも見当たらないよね。これって、日々是好日〜“日々の診療を楽しむ”なり。



解答

